



生ごみ堆肥化についてまずお伝えしたいこと

生ごみ堆肥化の良い点、うれしい点

生ごみを出さなくなるので、燃せるごみの量がぐっと減る

→軽くラクラク、臭いが気にならなくなります

自家製堆肥ができる→堆肥代が減ります

生ごみ堆肥で花や野菜を育てる喜び

→花の生き生きさ、野菜の美味しさが違います！

生ごみ堆肥化を通して友人の輪が広がる

→定期的に地域サロンを開き、情報交換しています

→困った時は悩まずに、ご連絡下さい

生ごみ堆肥化の悪い点、いやな点

コンポストをかきまぜるのが面倒

→堆肥が出来るのを楽しみにしながら作業すれば？

夏場、コンポストに虫が発生することがある

→人に害はなく、放っておけば動かなくなります

→堆肥をビニール袋に入れ、太陽熱で退治できます

→堆肥として土に埋めてしまうと良いでしょう

【生ごみ堆肥化は簡単！】 →詳しくは、新規登録時にお渡しする”堆肥化説明資料”、”マニュアル”をご覧ください



- ・側面と底面に、通気の小さな穴をあける
- ・底にサッシの網やレースカーテン等を敷く
- ・スノコを敷くと箱の底がべとつきにくい



- ・洗濯ネットに基材を入れる
- ・基材を入れる量は、箱の深さの7～8分目くらい



- ・基材に生ごみを入れてかき混ぜる

【堆肥化容器、置き場所について】

- ・各種箱でOK：段ボール箱、発泡スチロール、プラスチック箱、みかんコンテナ、木箱 ⇒冬は保温性のある発泡スチロールがお勧めです
- ・洗濯ネットが便利：基材の通気性がよく、かきまぜやすいです。
- ・雨で濡れない場所に置く、または雨の日は容器に蓋をします。

【生ごみを投入する】

- ・生ごみの水気を軽くきって、基材の中に生ごみを投入し、よくかきまぜます。
- ・生ごみ投入量の目安は、毎日約500g～1Kgくらい、多少多くなっても大丈夫。
- ・生ごみを投入し始めて2～3日経つと、温度が上がってきます。
- ・米ぬかや油かすを時々まぶすと、基材中の微生物が活性化します。
- ・基材がべとつき気味の時は、余りの基材を追加します。
- ・投入できるものは、肉の骨や貝殻等を除けば、食品は何でもOK。



【基材とは？】生ごみ堆肥化の“場”です。容器の深さの7～8分目の量を仕込みます。

- ・成分は、『おがくず、もみ殻燐炭、ピートモス、腐葉土、米ぬか』
- ・使える期間は、生ごみ投入量にもよりますが、1袋で3～4カ月です。
- ・登録後1年間は、市から基材が無料配布されます（1年に3回）。市からの通知でお知らせします。
- ・基材が足りなくなった時は1袋300円で、環境政策課窓口、地域連絡所(堆肥化マニュアルに記載)で購入できます。



【出来た生ごみ堆肥を使う】すぐに使っても、1～2カ月熟成させてから使っても、どちらでもよいでしょう。

【尊徳記念館地域サロン】年に3回(7月,11月,2月)情報交換の集会を開催します。基材配布,購入,新規登録もできます。

【生(いき)ごみ通信】旬の情報や地域の取組み等を掲載しています。尊徳記念館,小田原百貨店,郵便局,さがみ信金等で配布。

☆お困りの時は、地域連絡所(堆肥化マニュアルに記載)、尊徳記念館サロン担当、または環境政策課まで、ご連絡下さい！